

表紙エッセイ

人間は、かぶれる

野田秀樹 (劇作家、演出家、役者)

Essay

Caught, Watched and Realized

Hideki Noda (Playwriter, Producer, Actor)

離任のごあいさつ

小松諄悦 (国際交流基金日本語国際センター副所長)

Address for Resignation

KOMATSU Junetsu (Deputy Director of the Japan Foundation Japanese-Language Institute, Urawa)

教育実践レポート⑯観光・ガイドコース

観光業で役立つ日本語力の習得をめざして

オンソング ローズマリー ケルボ、長崎清美

(ケニア・ケニアウタリカレッジ 語学部講師)

Japanese Language Teaching Around the World ⑯

An Attempt to Get Japanese Language Useful for the Tourism
ONSONGO Rosemary Kerubo, NAGASAKI Kiyomi (Lecturer, Kenya Utalii College Languages Department)

国際交流基金日本語国際センター

ホームページの紹介

国際交流基金日本語国際センター情報交流課

The Japan Foundation Japanese-Language Institute, Urawa

The Renewal of Homepage

中・上級 新聞・雑誌から見る現代日本

第8回 「感情を持つロボット」

本コーナーは著作権の関係でホームページへの掲載ができません。

Intermediate and advanced Aspect of Japan Today in the Newspaper and Magazine

Robots with the human emotions

(This article is prohibited to appear on the web sight by copyright holder.)

初・中級 写真で見る日本人の生活

お茶

日本語・日本語教育を研究する

第16回 日本語の誤用研究

市川保子 (東京大学留学生センター教授)

Beginning and intermediate Japanese Life As Seen in Photographs

Green Tea

Research on the Japanese Language & the Japanese Language Education

Error Analysis of Japanese Language

Yasuko Ichikawa (Professor, International Center, University of Tokyo)

初・中級 授業のヒント

会話を進める

本ばこ (新刊教材・図書紹介)

海外日本語教育Q&A

ニュース・編集部から

Beginning and intermediate Ideas for Japanese-Language Classrooms

Proceeding the Conversation

Book Shelf : Introduction of New Titles

Overseas Japanese-Language Education Q&A

Miscellaneous News・From the Editors

マークは、読者が教えている生徒のレベルを示します。

mark indicates the level of students whom readers are teaching

離任のごあいさつ

国際交流基金

日本語国際センター副所長

小松 諄悦 (こまつ じゅんえつ)



このたびアジアセンターに異動いたしました。1年2か月という短い期間の日本語国際センター勤務ではございましたが、副所長という大任を無事つとめることができましたのは、平素からセンターの活動をご支援いただいた皆様方のご指導、ご協力のおかげです。こころからお礼もうしあげます。

海外における日本語教育はこれまで順調に拡充してきました。学習者数はこの10年の間に3倍ちかく増加しています。この傾向はこれからもつづいていくこととおもいます。とくにしばらくは低年齢層へのひろがりが増著になっていくでしょう。中国では小学校での日本語教育がひろがり、韓国では中学校で日本語教育がとりいれられました。日本語国際センターとしても、学習者の低年齢化に対応するあたらしい事業をおこなってきています。初中等教育教師研修や低年齢層むけのあたらしい視聴覚教材の開発などです。

数の増加には質がともなわなければなりません。2001年に1年で修士号を取得できる現職日本語教師のためのプロ

グラムをはじめました。9名の人がこの秋から研修(授業)をうけます。将来の日本語教育の中核となることが期待されています。また、センターでうける研修がクレジットとして認定される道もひらけてきました。2001年度の米加英の初中等研修がUCLAの単位を取得できることになったのです。今後は、類似のクレジット制度をもっている国でも認定されるよう努力していくつもりです。

情報提供、情報の交流もセンターの主要な活動です。ホームページを充実させてきています。教材素材の提供や世界の日本語教育状況などの情報掲載とともに、日本語教師のかたがたの情報交流の場として掲示板を新設しました。

在任した1年2か月というほんとうにみじかいあいだにも、日本語国際センターの活動はおおきく飛躍してきています。個人的には多くのことをやりのこしてきた思いがつつよいのですが、あらためてこれまでのご指導に感謝しますとともに、これからのセンターの活動にたいするひきつづいてのご支援、ご指導をお願いいたします。

表紙エッセイプロフィール

野田秀樹(のだ ひでき)

55年、長崎県生まれ。76年、東京大学在学中に劇団夢の遊眠社を結成。83年、「野獣降臨」で第27回岸田戯曲賞受賞。92年、劇団解散後、1年間の英国留学を経て、93年、企画製作会社NODA・MAP設立。以後プロデュース公演形式で精力的な演劇活動を展開。